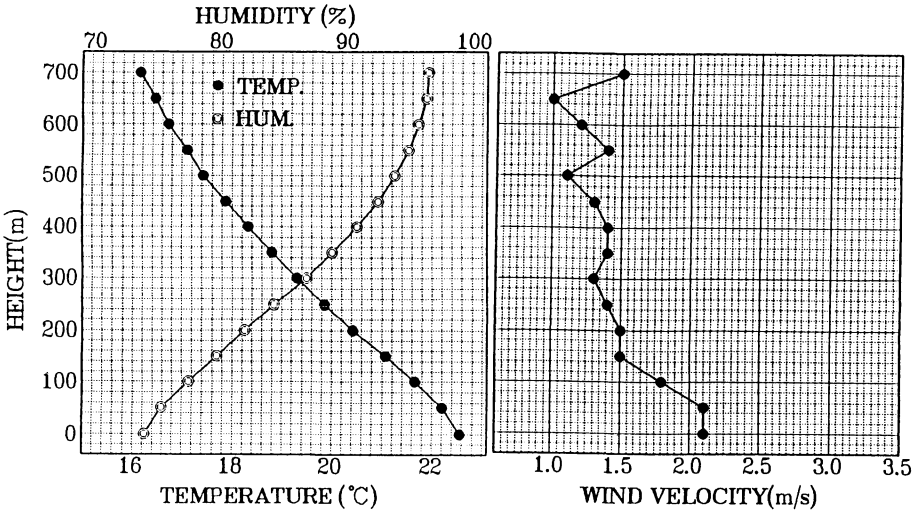

第3図　鉛直立坑内の気温・湿度・鉛直風速の鉛直分布

の湿度と気温，水蒸気及び雲粒の酸素及び水素同位体比等の測定，および各種の測定機器の相互比較を中心に行う予定である．ただ，残念ながらこれらの研究は今のところ全て手弁当で行っている．ここ当分はそのような地道な努力を続けざるを得ないにしても，将来は多くの機関の研究者の方々と共同して，雨や雪も降らすことの出来る本格的な雲物理実験施設が実現することを願って止みません．

編集後記：「天気」の表紙がこの1月号から新しくなった．同号巻頭の浅井理事長の言葉にもあるように，気象学会の今後のますますの発展を期待したい．表紙の改訂もこの願いの表れのひとつである．この編集後記にたびたび述べられているように，天気には論文だけでなく，幅広い分野の会員が気軽に投稿できるように各種のコーナーを設けられている．若手研究者や地方の会員にとっても投稿の機会はずいぶんと広がっている．

ただ少し気にかかることがある．学会員の約半数を占める気象庁職員の投稿についてである．気象庁は独自の定期刊行物を数多く持ち，職員による調査研究の成果はそうした刊行物に掲載される．ただし，業務と関連する成果でも，新たな知見としてより多くの人が興味を持つものも多いはずである．こうしたものをぜひ「天気」に投稿してほしい．そうして，異なった職種の会員と意見を交換することはお互いに有益であろう．例えば，「天気」への投稿を通じて，地方の気象庁職員と大学研究者が互いに情報を交換し，さらに共同で研究を進めることはむずかしいことであろうか．以前，駒林誠会員がある管区気象台の定期刊行物に寄せた一文を思い出す．それには「地方の気象官署職員は宝の山を持っており，大学の研究者はそれを堀り出す道具を持っている」という主旨のことが書かれていたと思う．そのとき，なるほどと感じ入ったものである．

（石原正仁）